

句集
夏雲



池田友之

第一句集『惜春』を出したあと
「惜春以降」として句を作ってきたが、
やはり第二句集にも題名がいると思い、
雲の句が多いので『夏雲』とした。

—— 著者

鹿島槍北峰けがす雪崩あと

震源は遠しと思ふ雲の峰

姨
捨
は
麓
を
の
ぼ
る
月
の
秋

梅
雨
空
は
阿
吽
の
形
の
白
眼
か
な

時置いて樹雨さやかに降りにけり

佃島夜潮に満つる秋の音

銀嶺を高く信濃の枯野かな

立春の富士烈風をあらはにす

蹴散らされ霜の節理の潔き

水遣れば水玉で知る蜘蛛の糸

初夏の雲動き初む夜明けかな

上枝には桐の花房立ちにけり

麗かに口紅を引く電車内

沖に遊ぶ若者よそに若芽刈る

古希越えて迎ふる年の下着買ふ

琴の音を追ひつつ覚むる大旦

除夜詣で明くれば新たに今一社

一日は母の命日初燈

陽は四方の春を起こして昇りけり

羽子の音の学校裏に響くかな

大奥のあと泰山木の花散りぬ

野川ゆく蛇の衣の浮き沈み

座布団へ横たはりたき藺の香り

片陰を立ちて鞆に本仕舞ふ

葯おちて白けがれたり百合の花

風の波玉巻く葛を吹きつぶし

身構へる我が身寂しき梅雨の明け

夏草を吹き渡る風兄の空

宿る木の裾染め上ぐる蔦もみぢ

冬隣改組日展の誘ひ来る

振袖の子に降る銀杏黄葉かな

冬に入る鳥ほじくる燃えるごみ

蟬
鳴
い
て
風
の
温
度
差
伝
は
り
ぬ

一
川
は
信
濃
へ
木
曾
の
夏
の
川

種
種
の
ア
イ
ス
ク
リ
ー
ム
開
田
村

御
岳
は
頂
上
見
せ
ぬ
夏
野
か
な

著者略歴

池田友之 (いけだ・ともゆき)

昭和13年 (1938) 9月19日 生まれ

平成11年 (1999) 「ぐる芽句会」 結成 主宰

日本俳人クラブ評議員

句集に『惜春』

句集 夏雲

2015年10月15日 第1刷発行

著者 池田友之

発行者 大崎紀夫

発行所 株式会社 ウエップ

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-24-1-909

電話 03-5368-1870 郵便振替 00140-7-544128

印刷 モリモト印刷株式会社

※定価はカバーに表示してあります ISBN978-4-86608-007-9